

# 監 査 報 告 書

平成 28 年 8 月 25 日

大学評価コンソーシアム

代表幹事 小 湊 卓 夫 殿

監査人

浅 野 昭 人



大 川 一 毅



私ども、監査人は、大学評価コンソーシアム（以下、コンソーシアム）の平成 27 事業年度（平成 27 年 8 月 28 日から平成 28 年 8 月 26 日まで）の業務について監査を実施しました。

その結果につき、次のとおり報告します。

## 1. 監査方法の概要

私ども、監査人は、幹事の業務執行の状況に関する監査（業務監査）に当たっては、幹事が行う諸活動に関する情報提供を受け、必要と認める場合には質問を行いました。

## 2. 監査の結果

コンソーシアムの活動については、会則および第 1 期活動方針、運営に関する指針にもとづき、適正に執行されていると認めます。

以上

別添

## 1. 組織の目的と活動内容

全国大学評価者コンソーシアム（以下、コンソーシアム）は、組織の目的として以下3点を掲げている。

- 1) 評価を通して、大学の教育、研究、諸活動の充実につなげるための支援を行う。
- 2) 実践を基本として、役に立つ知識・スキルの共有や、事例の分析を行う。
- 3) 評価に携わるすべての人（大学、評価機関、政府等）に役に立つ活動とする。

コンソーシアムは、上記目的に基づき、平成24事業年度（大学評価担当者集会2012終了直後）から5年間（大学評価担当者集会2017終了時まで）の行動計画として、以下2つを掲げている。

行動計画1：大学評価に携わるすべての人が「評価」という取り組みを通して、大学の改善を図っていくための理解を深めるための支援を行う。

行動計画2：評価人材の能力・スキルを明らかにし、評価人材が大学の改善のために効果的な支援が行えるような具体的なテーマを設定し、目的を明確にした評価人材の育成、資質の向上を図る。

これらの行動計画をもとに平成27年8月28日から平成28年8月26日までの活動結果は以下の通りであることが報告された。

### (1) 催し物の部

平成27年10月16日（金）

平成27年度：第2回 IR 実務担当者連絡会（於：山形大学 山形駅前サテライト）

[報告数：5件 出席者：26名 満足度：100%]

平成27年11月17日（火）

米国におけるアセスメント実践事例に関する勉強会（於：明治大学駿河台キャンパス）

[出席者：24名 満足度：100%]

平成27年12月2日（水）

第三期中期目標・計画に関する実務担当者のための情報交換会（於：神戸大学六甲台キャンパス）

[出席者：23名 満足度：96.6%]

平成28年1月8日（金）

平成27年度：第3回 IR 実務担当者連絡会（於：福岡大学）

[報告数：6件 出席者：41名 満足度：93.3%]

平成28年2月8日（月）

第三者評価等のための研究力把握に関する勉強会（於：山形大学東京サテライト）

[出席者：26名 満足度：94.7%]

平成28年2月23日（火）

平成27年度：第4回 IR 実務担当者連絡会（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）

[報告数：5件 出席者：33名 満足度：95.2%]

平成28年8月8日（月）

平成28年度：第1回 IR 実務担当者連絡会（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）

[報告数：4件 出席者：29名 満足度：94.7%]

平成28年8月25日（木）・26日（金）

「大学評価担当者集会2016」（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）

[出席者：125名予定]

※満足度は5段階で肯定的な2つの段階に回答した者の割合である。

## （2）出版物の部

情報誌「大学評価とIR」（平成27年2月発刊）

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib>

評価とIRに関する実践事例などを年4回発行予定するもので、平成27事業年度は以下の4号を発行し、17編の事例報告などが掲載された。

第3号 [平成27年（2015年）10月31日]

第4号 [平成27年（2015年）12月30日]

第5号 [平成28年（2016年）3月31日]

第6号 [平成28年（2016年）7月15日]

## 2. 監査人の所見

- ・評価人材の育成・資質の向上を目的とした連絡会や勉強会等を7回開催しており、大規模な大学評価担当者集会を除けば、合計202名の会員が参加した。IRに関する催し物だけでなく、大学評価に関する勉強会も開催している。アンケート結果（満足度：93%以上）から推察するに、会員のニーズに応える時宜を得たものであったと考えられる。
- ・催し物の開催時期が5ヶ月以上空く場合もあれば、1ヶ月を空けずに開催している場合もある。また、開催地域が、西日本地域に偏っている傾向がみられる。これらの開催間隔や開催地域について、事情はさまざまなものがあると思われるが、主催側も参加側にとって、理想的な形になっているのかどうか、無理の無いようなものとなっているのかどうか、ということについては、必要に応じて検証することを希望する。
- ・最も大きな活動企画である大学評価担当者集会の開催にあたっては、幹事会を複数（4回）開催して議

論を重ね、綿密な準備を行っているとの報告を受けている。企画については、会員のニーズを考慮して検討していると思われるが、会員数が約 600 名（平成 28 年 8 月現在）ということ踏まえると会員のニーズも多様化しているのではないかと、ということも考慮しなければならないだろう。従って約 600 名の会員という大きなリソースを活用した調査等を実施し、会員の現状と課題の把握を行うことで我が国の大学評価と IR の今を捉えつつ、現場の期待に応える企画を検討することも重要なことではないかと考えられる。

- いずれの取組みも、参加費等を徴収せず、全て無償で開催されている。無償による開催は、評価に携わる多くの関係者に広く研修の機会を提供するという点において意味を持っているが、組織の持続的・発展的存続を考慮した場合、その運営経費をどのように捻出するのかは、検討すべき課題であるように思われる。
- 情報誌「大学評価と IR」が、本監査対象期間である平成 27 事業年度において 4 部発行されるなど、評価と IR に関する実践事例研究が継続的に実施されていることは、本コンソーシアムの組織目標である「実践を基本として、役に立つ知識・スキルの共有や、事例の分析を行う」ことに大いに資するものであり、大いに評価できる。
- 本コンソーシアムでは、これまで国立大学法人第三期中期目標・計画への対応など、国や評価機関による全国的な動向を見据えた取組みを行ってきた。平成 24 事業年度から開始した本コンソーシアムの行動計画も、今年度は 5 年目を迎えることから、今後は政策動向や情勢への対応に留まらず、より積極的に大学評価のあるべき姿を提起する取組みに発展していくことを期待したい。